

# 東日本大震災 被災地復興支援報告

## 派遣職員が見た被災地の現状

被災地に学び、今私たちがやるべきこと

すべてを失い悲しみのどん底にありながら、復興に向けて力強く立ち上がる被災者たちの真摯な姿。私たち自治体職員も、知識と経験を生かし、何か役に立てるはず。それぞれの使命を胸に、現在まで4人の消防吏員と12人の市役所職員が、現地で復興支援を行った。

現地は、どこを見渡しても果てしなくがれきが続き、まさに地獄のような悲惨な光景。自然の脅威を思い知った。

活動は人命救助であったが実際はほとんど遺体捜索。寒さが厳しい上に余震が続く中、本部からの退避命令に注意しながら行った。流木に埋もれた遺体を発見した時には本当に胸が痛んだ。

水は経由地・静岡からポリタンクで運んだ。食事は缶詰やレトルトが中心。体力が資本の仕事なので、自分自身の健康管理に苦労した。

糸島では、このような大災害は発生しないと考えがち。しかしいつ起こってもおかしくない。最もたいせつなのは、自分のこととして心構えを持つこと。常に危険に対し、命を守る意識を持ってほしい。その上で、自助・共助に努めることが望ましい。自助とは、日ごろから避難場所を確認し、非常用持ち出し品を準備することなど。共助とは、自主防災組織を整えることなど。今、地域コミュニティのたいせつさが再認識されている。非常時の要援護者の救助法を決めておくこともたいせつだ。



瀬戸口 昌宏／37歳  
糸島市消防本部予防課 兼  
糸島市消防署本署救急隊

山元町で遺体捜索などに従事

### 危険に備え、日ごろから心構えを

### 市職員と市民の信頼関係の構築が必要



林 久美子／48歳  
糸島市子ども課  
子育て支援センター所長

東松島市で申請事務の支援に従事

県の合同派遣第1陣に参加したのは、震災からちょうど四十九日の頃。日常生活に戻りつつある家庭・復旧に追われている家庭・家を失い何も手に付かない家庭が混在する中で、行政業務を行うことの難しさを感じた。しかし同時に、災害時の行政運営の在り方について多くを学ぶことができた。

被災者の方々の市職員に対する信頼は非常に厚く、市役所との関係が身近であった。窓口の混乱を理解し、不平不満を一切言わず、逆に遠方からの支援に対し心から感謝してくれた。本当にこちらのほうが頭の下がる思いだった。

糸島市でも、職員がもつと地域に溶け込み、市民と良い関係をつくる必要がある。また、まちづくりについて、いかにして街を守るかも考えるべきだ。緊急時には救急・消防・行政だけでは手が回らないので、地域は地元住民で守らなければならない。いざというとき高齢者・障がい者・子どもたちが守られる体制づくりが急務である。

ぜひ、被災地に行き、自分の目で現状を見てほしい。何か感じるものがあるはずだ。

### 東日本大震災 被災地派遣者 報告会を開催します

糸島市から復興支援に参加した歯科医師や獣医師、市民ボランティア、糸島警察署員、糸島市職員が被災地の現状を報告します。今後の支援活動や防災対策について、みんなで一緒に考えてみませんか。

日時 8月9日(火) 18時～21時  
場所 人権センター3階大会議室(糸島市前原東2-2-1)

問い合わせ 糸島市危機管理課 ☎(332)2110

#### これまでに派遣した職員

福岡県緊急消防援助隊糸島隊・宮城県巨理郡山元町

- 矢野 和英(消防司令)
- 瀬戸口 昌宏(消防士長)
- 末安 哲一(消防副士長)
- 石丸 寛弥(消防副士長)

3月14日～3月21日

〈被災地での活動内容〉  
人命捜索・遺体捜索、緊急出動、救助出動など。3日間で12遺体を発見。

福岡県合同被災地派遣・宮城県東松島市

- 第1陣／林 久美子(係長) 4月27日～5月5日
- 第3陣／古川 毅(主査) 5月9日～5月17日
- 第5陣／高須賀 健(主査) 5月21日～5月29日
- 第7陣／波多江 裕史(主査) 6月2日～6月10日
- 第10陣／中野 幸功(主任) 6月20日～7月1日
- 第11陣／中庭 昭宣(係長) 7月28日～8月8日

〈被災地での支援業務〉  
災害用窓口業務(各種受付・相談)、通常業務補助など

福岡県合同保健師等派遣・宮城県石巻市

- 第24陣／小林 智子(主査) 7月31日～8月8日
- 〈被災地での支援業務〉  
被災者の健康相談・健康チェックなど

ボランティア派遣(自治労経由・宮城県気仙沼市)

- 波多江 智英
  - 藤森 弘敏
  - 松山 義人
  - 浜地 克
  - 松崎 一弥
- 4月30日～5月9日

〈被災地での支援業務〉  
避難所運営支援など

この未曾有の災害に何を学び、どう生かすのか。決して他人事ではないということとを肝に銘じ、起こり得るすべてに対して万全の備えをしなければならぬ。持ち出し品を準備する、避難場所を確認する、地域の絆を深める…。まずはできることから始めよう。

糸島市では、80人以上の職員が復興支援を希望している。今後も福岡県や全国市長会と合同で職員を派遣し、被災地の早期復興に貢献していきたい。